

北海道浮魚ニュース

令和元（2019）年度 9号

2019年7月25日

道総研 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎第2回日本海スルメイカ長期漁況予報発表される

7月25日、第2回日本海スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は日本海全域を対象とした漁期後半（8月～12月）の予報です。

なお、この予報は水産研究・教育機構と日本海側道府県水産研究機関が参画し、日本海区分水産研究所がとりまとめを行いました。詳細は以下のホームページからご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<http://www.fra.affrc.go.jp/>)

日本海区分水産研究所 (<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>)

「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」 (<http://abchan.fra.go.jp/>)

今後の見通し（2019年8月～12月）

対象魚種：スルメイカ

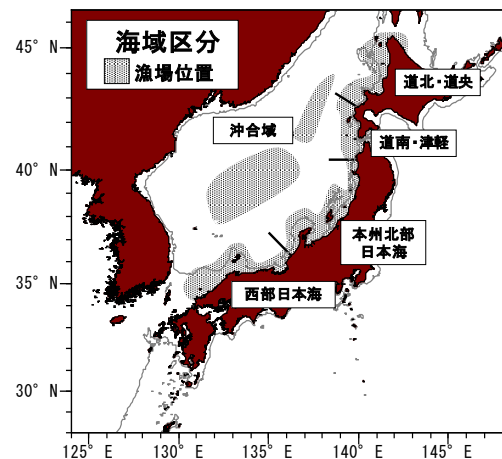
対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り漁業・小型いか釣り漁業

対象魚群：秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

- ・今期の日本海全体の来遊量は前年および過去5年平均を下回る。
 - ・道央・道北では前年および過去5年平均を下回る。
 - ・道南・津軽では前年並で、過去5年平均を下回る。
 - ・本州北部日本海および西部日本海では近年同様、漁場が形成されにくい。
 - ・沖合域では前年および過去5年平均を下回る。
- 漁場は北海道西沖で8月～11月、大和堆周辺海域で11月～12月に形成される。

※過去5年は（2014～2018年）の平均



・6月中旬～7月中旬に実施された日本海スルメイカ漁場一斉調査（函館水試調査分は浮魚ニュース第6号を参照）では日本海全体の資源量指標値は前年を下回り、過去5年平均を下回ったことから、来遊量は「前年および過去5年平均を下回る」と予想されました。

・日本海スルメイカ漁場一斉調査での外套背長のモードは前年および過去5年平均より小さく、19cm以下の個体で9割以上を占めていました。

・日本海全体の漁獲量は4月まで前年を下回り、5月～6月は前年を上回りました。道北・道央の漁獲量は、例年通り6月から増加しましたが、大部分は道央で漁獲されており、前年および過去5年平均を下回りました。道南・津軽での漁獲量も、例年通り6月から増加しましたが、不漁の前年並で過去5年平均を下回りました。

（函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）